

飛驒久々野朴の花



都下

東京 都下 福田 三三九

横山は多摩川即ち柳の郷  
吾が柩七才凍工に鉄入を  
雪の溜三段降し厨に  
何も彼も柩に豆腐もは  
ならやひの下足の札も下足番

福田草一

夕陽に一つ星  
返りて化小手を鉄刺  
のまぐ米の透ける空  
夢をま夕日影  
つた水や蹄をた

秋寺文録の標  
下り集舟の踊り  
いつか鵜尾を振り  
甘き女賊さつり  
山川も山のぼり

早川と油川  
五月九日  
春巻伝長

昭四市 子平山  
大橋 杉地子  
三三五

大橋櫻枝子

何人 雑詠 こと福田草一

羨の子餅ときき社定に任まひ  
枯蓋にこぶ三三三才二厨  
鶴翔すしこ干秋のら家まはら  
短りた家端なる閑屋街  
炭斗に板炭と羽鳥の

福田草一

五五回のこいびんやに流水  
角巻を若く温泉と浴に子連水  
菖を若くスキリコトの雨情  
山鴉よく啼く日なり雪卸す

高瀬 康子  
高瀬 康子  
此展文化図書并交に致し仰祝  
ひ下され展覧に存じしは 厚く御  
禮を申し上げます  
昭和十二年十月一日

高瀬 康子  
高瀬 康子

何人 雑詠 こと福田草一

みづのくの大  
新に玉で 矢折の音子  
川を流すよ早しものまに共授す  
ヨット航く膳打の氷並のみ低く  
こらぬ子とまにせり登山の  
上